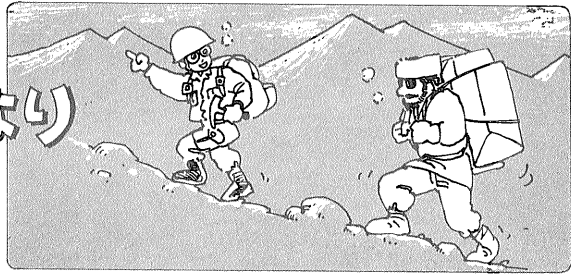


海外室だより



No. 26

昭和62年度沿海鉱物資源探査コース集団研修はじまる

昭和62年度の本集団研修には 11ヶ国より18名の応募者がありました。しかし 研修定員の都合上 それぞれの国から1名の研修員が選考され 本年度は 11ヶ国11名の研修員を迎えることになりました。5月11日に来日した研修員は 2週間の一般研修と日本語研修を行い あいさつ 自己紹介は日本語でも十分できるようになりました。そして 6月1日からは ここ筑波学園都市の工業技術院内にある研究協力センターにおいて技術研修が行われています。技術研修は ①基礎科目 ②専門科目 ③石油特別科目 ④特別講義によって構成され 月に1度 1週間ないし10日間の野外実習 および研修旅行を行います。4ヶ月間の講義 実習後 研修員は 各自それぞれの研究テーマを選び 2ヶ月間の個別研修を行い 技術レポートを作成することになっています。今年の研修員は 石油探査の専門家が2名 陸上地質の専門家が4名 海洋地質 地球物理の専門家が5名で いずれも自国において沿海鉱物資源探査の第一線で活躍している人達 あるいは これから自国において沿海鉱物資源探査をはじめようとする人達です。

そのため意欲的で 熱気ある研修がつづけられています。

日常生活でも 来日して2ヶ月がたち 日本の生活にもすっかり慣れた様子で 誰彼かまわず“英語わかりますか?”と得意の日本語で話しかける者 北海道の研修旅行で習った「好きです札幌」という歌の口調で いつも「好きです〇〇」とロザさむ者 などいてにぎやかな毎日です。

それでは 今年の賑やかなメンバーを御紹介いたしましょう。

フランシスコ (ブラジル) José Francisco Marciano

Motta サンパウロ州立技術研究所

ウィン (ビルマ) U Myint Win

エネルギー省 ミヤンマ石油公社

リュウ (中国) Liu Shenshu

地質産産部 海洋地質調査局

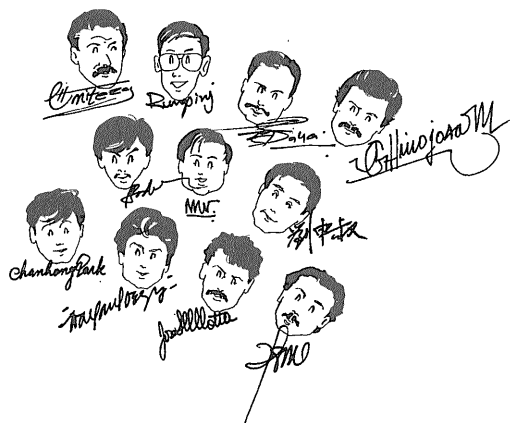
ワヤン (インドネシア) I Wayan Lugrd

海洋地質研究所

パク (韓国) Chan Hong Park



ウイン
レイ
リュウ
ワヤン
パシヤ
ウミット
イスマイル
パク
ラン
フランシスコ
グレゴリオ



韓国科学技術院 海洋研究所

イスマイル (マレーシア) Ismail Bin Ahmad
マレーシア地質調査所

グレゴリオ (メキシコ) José Gregorio Hinojosa
Martinez 鉱物資源局

レイ (フィリピン) Reynaldo T. Rodelas
天然資源省 鉱山地球科学局

ラン (タイ) Rungsiraj Vongprommek
工業省 鉱物資源局

ウミット (トルコ) Ümit Sahap Tezcan
トルコ石油公社

(木下)

フィジーのクーデターと専門家派遣

海洋地質部の奥田義久技官は CCOP/SOPAC への JICA 派遣専門家として 6月29日にフィジーへ赴任しました。1年間の予定です。

話は少し古くなりましたが 出発までに色々トラブルのあったケースですので その経緯について触れておきたいと思います。

頭初の出発予定は5月6日でしたが フィジー政府からのアグレマンが遅れ 5月22日にズレ込みました。ここまでは良くあるケースです。ところが 出発直前になって フィジー国内にクーデターが勃発しました。このため JICA 総裁よりフィジーへの渡航見合せの通達が出され 奥田技官の出発は宙ぶらりんの状態になってしまいました。この間 すでに出発準備を整え 生活用品の発送まで終っていた同技官のイライラはつるばかり。連日のように当室に現れ 英字新聞の関連記事に見入っている姿は 端で見るのも気の毒なほどでした。報道されるフィジーの状況は一向に好転しません。しかし SOPAC は国際機関で たまたま事務局がフィジーにあるだけですから フィジー政府の政変とは無関係のはずです。そこで SOPAC の事務局長を

通じて 在フィジー日本大使館へ同局の業務状況を説明し 日本からの専門家派遣の早期実現を 働きかけてもらうことにしました。これが功を奏し 結局は冒頭のように6月29日の出発にこぎつけるに至ったわけですが 現地の様子はやはり好ましいものではなかったようです。以下に紹介する奥田技官からの第一報がその辺の事情を生々しく伝えています。

最近の手紙によっても その後の状態はあまりはかばかしくないとか。生活環境の不安定は仕事上も精神面でも良からうはずがありません。好漢のためフィジー情勢の一日も早い回復を祈るものです。(遠藤)

無事フィジーに到着しました。ナンディーは観光客が殆んどなく 3年前の観光都市のイメージは全くありません。一種のゴーストタウンで 治安も悪そうです。ナンディーへスバの飛行機は乗客数が少ないと欠航するため ナンディーで7時間も待たされましたが 乗った飛行機も定員の半分といったところです。この間リージェントホテルやゲートウェーホテルにも行ってみましたが 客が全くなく レストラン パーも休業状態です。それに反してスバの昼間は全く3年前と変わっていません。しかし夜はゴーストタウン的で外出する気になれませんでした。(中略)

フィジーの外貨事情が悪く(中略)先日突然フィジードルの切り上げがあり こわくてフィジードルを持っていられません。したがって金欠感がのびのびと不便な毎日を送っています。JICA の現地業務費は大幅に目減りしそうですが JICA 規定に従ってフィジードルに換金しますので 何もしないでマイナスになる感じです。(中略)

カナダから赴任した人は フィジードルの変化のためもう帰国したいといったり CCOP/SOPAC の海外旅費も目減りし CCOP/SOPAC 内部も今はガタガタしています。(後略) (奥田義久)

地質ニュース	第397号	9月号
	定価 ¥630	〒実費
昭和62年9月1日	発行	
編集	工業技術院地質調査所	
発行人	林久雄	
発行所	株式会社実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	〒102	
	Tel. (03)265-0951 (代表)	
	振替口座 東京1-32466	
総発売元	株式会社実業公報社	
	出版事業部	